

令和5（2023）年度

福祉サービス第三者評価結果報告書

# 板橋仲町どろんこ保育園

特定非営利活動法人福祉総合評価機構

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「にんげん力」を身に付けるために必要な遊び・野外体験を提案実践し”自分で考え、行動する思考”を育みます。</li> <li>・10よりも100の経験を与え、子どもが”したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援してゆきます。</li> <li>・“感じたこと・考えたこと”を言葉でジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。</li> <li>・「0を1にかえる力」を日本中の子どもたちにつけ、物事を投げ出さずに向き合う若者が社会を支える世の中を創ります。</li> </ul>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育現場で求める人物像 現状に満足せず自己の成長を常に意識している人 やって見せてあげて背中であげてゆける人 より良い保育を目指して創意工夫していける人</li> <li>・社会人としての質向上 忙しさや大変さを表情や口調に出さず、いつでも笑顔心を心がける。お願いします、ありがとうございます、など仕事での言葉遣いに注意し、正しい日本語を身に付ける。子ども全体を見て自分が今、何をすれば良いのかを判断して、自ら行動したり、提案する。</li> </ul> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士としての質向上 子どもの命を預かる重みを自覚し、守らなければいけないことを遵守し、常に平常心で子どもと接する。後輩には自分の知識を教え、育てる気持ちを持ち、一人ひとりがリーダーになるという気持ちで責任を持って保育を行う。</li> </ul>

調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯61(在籍児童数79)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。ウェブアンケート形態により実施し、回収は保護者から評価機関への直接電送(外国語世帯のみ調査票の直接郵送)にて行った。結果は選択式・自由記述とも園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数	79
利用者家族総数(世帯)	61
共通評価項目による調査対象者数	61
共通評価項目による調査の有効回答者数	36
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	59.0

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」52.8%・「満足」36.1%の計88.9%で、設問別では「発達に配慮した保育活動」「職員の対応・身だしなみ」「子どもの気持ちの尊重」など全17問中12問で80%台～100%の高い支持を得ており、「外部相談窓口の周知」のみ50%を下回っている。  
 自由意見では「家庭での保育では到底できないほどの時間の外遊びをたくさん採り入れてくれ、おやつの手作りも家庭では難しく、縦割り保育で歳の違う子たちとも交流があり、他の人と話すことに慣れているように思える」「体験を非常に重視しており、都会では経験できなさそうな自然とのふれ合いなども積極的に行ってくれたり、子どもの発達に応じた楽しい遊びをたくさん用意してくれてありがたい」「今時あまりなさそうな裸足保育、泥んこ遊びや、なかなか都会では経験できないヤギのお世話など、自然な感じがとてもよい」「自然や動物とのふれ合い、料理体験や畑仕事などはとても有意義だ」「先生たちがみんな優しく、子どもを大切にしてくれている」などの声が寄せられている。  
 さらなる向上を望む意見として複数見られたのは、安全・保健衛生、人員配置、現場の職員体制、日常の保育に関することである。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	36	0	0	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、有効回答者36人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には「家庭でさせてあげられないような泥遊びや絵の具遊び、身体を動かした遊びなどをたくさんさせてもらえ、あとは周りのお友達との関わりも刺激になっている」「さまざまな体験活動があり、子どもの心身の発達にとってもよいと思う」「毎日身体をよく動かすようになった」「先生たちが子どもたちに愛情を持って毎日接してくれているのがわかり、とてもいい保育園だと思う」など11件が寄せられている。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	35	1	0	0
「はい」が97.2%、「どちらともいえない」が2.8%となっている。 自由意見は5件で、「毎日保育園に行くのが楽しいみたいで、好きなことをたくさん経験させてもらっているのだと思う」「自分と歳の違う子と遊んだり、植物や動物への関心も高くなっているようだ」「家に帰ってきて、保育園でやったであろうことを家でもやってくれる」などのほか、幼児組の活動内容について、さらなる配慮を望む声があった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	33	3	0	0
「はい」が91.7%、「どちらともいえない」が8.3%となっている。 自由意見は7件で、「おやつも市販品はほぼなく手作りのものが提供され、大豆から味噌を作ったりトマトからケチャップを作る体験もあり、食育にもつながっている」「異国のお菓子や普段絶対食べないチャレンジングなメニューがあってもおもしろく、子どもも喜んでい」「除去食の提供をしてくれてとても助かっており、また臨機応変にわが子の状況を見て対応してくれて安心している」などのほか、個別の食の傾向への対応や砂糖の使用について、さらなる配慮を望む声が見られる。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	33	0	2	1
「はい」が94.3%、「いいえ」が5.7%となっている。 自由意見は8件で、「近くの商店街へ行ってお店見学をしたり、動物のお世話をしたり、家ではできないことをたくさん経験できていると思う」「たまに多国籍な方を呼んでの交流などもあり、うれしい」「入園した当初は虫を怖がっていたが、今は自分から触るようになり、興味を持つようになった」「いろいろな行事を計画してくれ、ありがたい」などのほか、行事のさらなる充実を望む声や、冬の銭湯体験に関する検討を望む内容が寄せられている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	30	2	0	4
「はい」が93.8%、「どちらともいえない」が6.3%となっている。 自由意見には「臨機応変に対応してもらって助かっている」「迎えが早まった時もおやつ時間を少し早めてくれたりして、柔軟に対応してくれている」「電車の遅延や天気などの影響では柔軟に対応してくれる」など4件があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	24	7	5	0
「はい」が66.7%、「どちらともいえない」が19.4%、「いいえ」が13.9%となっている。 自由意見は8件で、「多少のすり傷でも逐一報告してくれ、ありがたい」「安全対策は取ってくれていると思う」のほか、保育中の安全管理や外部侵入対策等について、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	26	8	1	1
「はい」が74.3%、「どちらともいえない」が22.9%、「いいえ」が2.9%となっている。 自由意見は6件で、「運動会や発表会は毎回土曜開催だ」「基本的に行事は土曜日である」のほか、行事の日程の設定、日程等の連絡などにおける各家庭への配慮について、さらなる検討を望む声が寄せられている。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	31	5	0	0
「はい」が86.1%、「どちらともいえない」が13.9%となっている。 自由意見は7件で、「離乳食を始めたばかりだったので、離乳食のことや卒乳について相談して進めていけたのはよかった」「担任だけでなく、いろんな先生に見てもらえているので、自分が話しやすい先生に相談できるのがよい」「先生方にお話ししたり相談したりすればしっかり意見を言ってくれると思う」などのほか、「人による」といった声や、職員の退職・異動について、さらなる配慮を望む内容が寄せられている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	29	7	0	0
「はい」が80.6%、「どちらともいえない」が19.4%となっている。 自由意見は3件で、「いつも窓を拭いているのが見える」「園内は清潔に感じる」のほか、子どもへの手洗い指導や虫対策について、さらなる配慮を望む声があった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	36	0	0	0
有効回答者36人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は「いつも気持ちのいい挨拶をしてくれ、子どもたちもそれをまねしていて、とても雰囲気がい」の1件であった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	32	2	1	1
「はい」が91.4%、「どちらともいえない」が5.7%、「いいえ」が2.9%となっている。 自由意見は4件で、「すぐ病院に連れて行ってくれるので信頼できる」などのほか、ケガ等の把握・対応、保護者への連絡について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	26	6	1	3
「はい」が78.8%、「どちらともいえない」が18.2%、「いいえ」が3.0%となっている。 自由意見は3件で、「見る機会がないのでわからない」「あまりないのでわからない」のほか、トラブル発生時の保護者への報告について、さらなる配慮を望む声が見られた。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	34	2	0	0
「はい」が94.4%、「どちらともいえない」が5.6%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	30	3	0	3
「はい」が90.9%、「どちらともいえない」が9.1%となっている。 自由意見には「そのような機会がないため、わからない」の1件があった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	32	4	0	0
「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が11.1%となっている。 自由意見は3件で、「今の担任の先生は保育目標を説明してくれて、それに沿った活動をしてくれ、お迎え時の説明もわかりやすい」のほか、保育内容の説明について、さらなる工夫を望む声が見られた。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	25	6	2	3
「はい」が75.8%、「どちらともいえない」が18.2%、「いいえ」が6.1%となっている。 自由意見は6件で、「以前に保育参加で感じたことを伝えた後、改善されたことがあった」「話は聞いてくれる」のほか、保護者の不満・要望等への傾聴姿勢や対応について、さらなる配慮を望む内容が寄せられている。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	11	8	6	11
「はい」が44.0%、「どちらともいえない」が32.0%、「いいえ」が24.0%となっている。 自由意見は「第三者委員会の存在があることもよくわからない」の1件であった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	カテゴリ1の講評	
	法人共通に掲げる理念と子育て目標を、さまざまな表現で保護者に周知させている 子どもたちが“自分で考え、行動する思考”を培い、課題や困難に自ら立ち向かい、解決することのできる人へと育てゆく、その基礎を育むことを法人の使命として、理念「にんげん力。育てます。」に象徴させている。また子育て目標「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」に、理念の実践として提供する、多様な自然・労働体験やさまざまな人々との出会いと関わりを掲げている。保護者にはこれらを、見学・入園時の説明のほか、保護者懇談会や日々の「タイムライン」等を通じた保育実践の発信などを通じ、共通理解の形成を図っている。 法人の目指すものを組織として共有し、経営層の統括のもとで園運営がなされている 職員には上記の理念・子育て目標について、入職時やその後の法人による各種研修において理解と実践が促されるほか、園内の毎年度の「策定会議」「キックオフミーティング」、日々の会議での保育や子どもに関する話し合いなども、実践に根差す視点で理解を深める機会となっている。園長・主任及び各リーダーが、園運営の統括を担うとともに、毎年度の事業計画の説明や折々の会議等を通じ、園・法人の方針を現場に伝えている。日々の組織運営においては、挨拶の励行と肯定的・受容的なコミュニケーションを旨とし、活力ある現場づくりに努めている。 各種案件の検討・決定と、必要な事柄を組織内・保護者に伝える仕組みが整えられている 経営層による「リーダー会議」、参加可能な全職員が集う「園会議」をそれぞれ毎月設け、園全体に係る各種案件の検討・決定は、主にこれらの会議でなされるほか、緊急性に応じ、日々の昼れも意思決定の場としている。欠席者などには議事録や園内チャットを通じて必要な情報を周知させ、保護者には主にアプリによる配信と既読確認により、各種の重要な連絡事項を伝え、必要に応じ書面も併用している。法人共通の施策・方針等は、系列園の施設長が集う毎月の会議や、その他の随時の発信によって各園に伝えられ、直後の会議・昼れで園内に周知されている。	

カテゴリ-2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリ-1(2-1)		
	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>6/6</b>
	評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>5/5</b>
<b>評価項目1</b> 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<b>カテゴリー2の講評</b>		
<p><b>年度の園運営及び今後3か年の重点課題・目標などを、各期間の計画に定めている</b></p> <p>毎年度の事業計画に、法人の理念・子育て目標や、現場の実況をもとに掲げられる「運営本部ミッション」を踏まえ、年度の園の目標と、保育や保護者・地域支援、人材育成やSDGsの実践など、保育と運営の7分野における年度の重点課題のほか、保育・食事・保健や安全、人材育成や地域交流・支援などに関する年間の取組の予定・方針を定めている。また同計画の末尾に、当年度を起点とした3か年の「目指す姿」「重点施策」と、前年度の振り返りを併載している。園目標は前年度末の「策定会議」での話し合いをもとに定め、方向性の共有につなげている。</p> <p><b>保護者や職員の声を把握し、事業計画や実務の各計画などの立案に活かしている</b></p> <p>事業計画中の保育・食事・保健・安全などの各分野では、現場の実務に関する年間計画と各期間の実行計画を別途作成し、目標・ねらいの設定や、計画の期間・内容に応じた期中の振り返りのもとで実行している。また保護者の意向を、日々の会話・アプリ連絡帳のやり取りや保護者懇談会などを通じて把握し、左記の各計画や上述の事業計画などの参考としている。職員の意向は、前述の各会議や園長との面談のほか、法人が行う組織運営や働く環境・同僚性などに関するアンケートなどから把握し、各計画や、同アンケートを踏まえた是正計画に反映させている。</p> <p><b>地域の状況や行政の制度・政策の動向、園の経営状況の管理の仕組みを整えている</b></p> <p>入園前見学や後述の子育て支援イベントで来園する地域の未就園世帯から、会話やアンケートを通じ、子育てや教育・保育などに関するニーズを把握し、それらに関する地域内の傾向を知る手がかりとしている。また地域の保育所・幼稚園・小学校の連絡会や、区の私立保育所園長会から入手する毎月の会議の資料からも、地域の状況や区内の施設経営などに関する情報を収集し、法人の各園が集う会議や行政・法人の各種通信物から、関連の制度・政策などの動向を把握している。予算の作成と収支・稼働率等の管理は、法人と園との連携のもとでなされている。</p>		



カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>5/5</b>
<b>評価項目1</b> 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる <p style="text-align: right;"><b>評点(〇〇)</b></p>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている <p style="text-align: right;"><b>評点(〇〇〇)</b></p>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<b>カテゴリー3の講評</b>		
<p><b>法人の職員が保育者・社会人として規範意識を高く保てるよう、種々の啓発を行っている</b></p> <p>法人共通の「コンピテンシー」に、「プロになる」「保護者の立場に立つ」「ビジネスマナー」「危機管理」など7分野で、職員に求める行動・判断の指針を定め、これをもとに各職員が毎月自身の強み・課題などを振り返り、次月の目標を設定する仕組みを設けている。またその集約をもとに行うコンピテンシーの振り返りで、園の共通課題と「全体アクション」を共有し、保育者や組織の一員としての各人の行動規範としている。入職時の初期教育においても、人権擁護や機密保持、社会人としての基本心得など、法人の職員としての規範・倫理が学ばれている。</p> <p><b>保護者の意向への適切な対応や、家庭と園内での虐待等の防止に取り組んでいる</b></p> <p>苦情解決制度や玄関の「ご意見箱」、日々の交流・面談などから保護者の意向を把握し、案件に応じた誠実な対応に努めている。家庭での虐待等の発生に備え、関連の手引きを常備し、必要時の通報・連携先機関を定めるほか、4月の「園会議」や法人の新人教育でも啓発がなされている。また法人策定の「児童・保護者の人権に関するチェックリスト」により、子どもの人権・性差への配慮や体験の保障、保護者支援などについて、全職員が半期ごとに内省を行い、左記の園会議でも国の例示するチェックリストをもとに、不適切な保育の排除の徹底を確認している。</p> <p><b>地域の社会資源として、保育・教育施設との連携や園の情報・機能の提供に努めている</b></p> <p>ホームページや板橋区を通じた園の各種情報の発信、後述の子育てイベントに関する地域内の掲示板での広報などを行うほか、保育実習生の受け入れや、関連の手引書等の整備もなされている。また地域の保育所・幼稚園・小学校の連絡会を通じ、地域内の保育・教育施設間の交流にも加わり、区の私立園長会とも資料を通じて情報を共有している。近隣の公園で行う「青空保育」、実費負担で楽しめる給食体験や切り干し大根・七草粥・スイートポテトなどの調理体験、ちぎった紙を使った制作体験など、地域の親子向けのイベントも毎月企画している。</p>		

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>5/5</b>
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>4/4</b>
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>災害や不審者侵入に備え、各種の訓練や手引書の整備がなされている</p> <p>SIDSを含む各種の事故や災害・不審者など、恒常的に警戒すべき各種の重要リスクや、各種感染症・熱中症など、時季ごとに高まるリスクに対し、種々の対策を行っている。毎月の避難訓練では、一日の各時間帯を想定して災害時の対応や保護者との連携を確認し、法人の「クライシスマニュアル」に、当園を含む法人全体の、重大事故や災害等の発生直後から翌日までの諸対応が示されている。また法人が災害・感染症発生時のBCPの整備・検証を進めている。不審者対策訓練も年2回行い、侵入に加え、戸外での遭遇時の対応も今後検討する意向である。</p> <p>園と法人の各単位で、安全・保健衛生面に関する現場へのさまざまな啓発を行っている</p> <p>新年度前の会議で、嘔吐処理とアレルギー食提供・エピペン対応をロールプレイ形式で確認するほか、子どもの睡眠時の状態確認や夏場の外遊び等の自粛など、SIDS・熱中症対策にも努めている。また子どものケガ等の事故や種々のヒヤリハットは、遅滞なく発生時の状況の確認や原因・対策の考察を行うとともに、毎週の会議での振り返りや、組織内の「事故防止委員会」による毎月の集計と傾向把握もなされている。同委員会では園内の各種事例の検証なども行われ、法人の内部監査室が系列全園の事例を毎月集計し、各園に啓発を行う仕組みも持たれている。</p> <p>各種情報の適切な取り扱いと漏洩防止のための、さまざまな仕組みと環境を整備している</p> <p>法人共通の「保育品質マニュアル」に、情報漏洩防止やプライバシー・肖像権保護の観点で、実務上の取り扱いルールを定めており、職員には入職時に関連の啓発がなされるとともに、全職員が年2回の「情報セキュリティチェック」により、書類・電子の各情報の取り扱いを振り返っている。また上記の新年度前の会議でも、個人情報保護の徹底を確認しており、重要書類の施錠管理や端末・ソフトウェア類の各種セキュリティ設定など、ハード面でも漏洩防止に配慮している。保護者には入園時に、個人情報の利用目的や開示等の請求への対応などを説明している。</p>		

カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー2(5-2)		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	3/3
組織力の向上に取り組んでいる			
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に 活かす仕組みを設けている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー5の講評			
<p><b>人材の確保と適切な配置に努め、職員のキャリア形成・研鑽の段階的な指標を定めている</b></p> <p>法人が系列全園の人材採用を行い、各種媒体・養成機関を通じた求人、採用関連業者との連携や在職者への紹介の奨励など、多様な方法で人材確保に努め、各園の状況と各人の意向・キャリア形成等を踏まえた配属・異動を行っている。園内では各クラスの状況に応じた配置を行い、その中で各人の適性・経験や能力の発揮、チームとしての相互研鑽や育成を促している。給与規程中の資格等級表に、初任者から経営幹部級までの各職責が示されるほか、「保育品質マニュアル」には入職後の段階的な研鑽の指標を示す「人材育成・研修計画」が掲載されている。</p> <p><b>個別の目標管理制度や種々の社内研修等により、職員の成長と意欲の向上を支援している</b></p> <p>常勤者対象の目標管理制度では、上記の等級上の職責と年度の園の重点課題をもとに、園の一員として・職員としての各視点で成長目標を設定し、半期ごとの園長との面談による助言・指導、年度末の達成評価を行うとともに、評価を人事や賃金面にも反映させ、各人の成長と意欲の向上を支援している。また新人から役職者・園長級まで、職位・経験や職種に応じ、全社共通または事業部別の研修が設定され、各職員に受講が促されるほか、保育や保護者支援について、各園の職員が参集して話し合い、成果を自園に還元する仕組みも持たれている。</p> <p><b>内外の多様な研鑽と現場の話し合い、労働環境の整備など、組織の活力促進に努めている</b></p> <p>内外の各種研修や他園の施設研修等で各人が得た学びは、報告書・資料や会議での報告によって組織内に伝えられる。また毎月の会議で設ける園内研修など、話し合いや実践を通じた研鑽も活発になされており、同僚性を高める場ともなっている。各職員の就業状況は園長・法人が連携して管理し、法人が必要に応じ、各種労務管理や休暇消化等の奨励などに関する随時の指導を行っている。毎週の会議では当週の各クラスの活動や行事の予定などを確認し、協力体制や人員配置を検討するなど、現場の労働環境の最適化に努め、さらなる改善にも取り組む意向である。</p>			

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1</p> <p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
<p>法人の運営本部において、傘下の各園での現場の状況や保育などにおける課題をもとに、毎年度の「運営本部ミッション」を定め、これを各園の事業計画や人材育成などに活かす仕組みがある。</p> <p>昨年度の事業計画では、年度の同ミッションとされていた「原点回帰:どろんこ会グループの日課・基本活動へのこだわり」を園目標とした。そのための取組として、同計画の「保育内容の充実・質の向上」の項では、「自分でできることを自分でする」「計画・ねらい」の一つに定め、畑仕事などの子どもたちが日課として行う取組について、時間と内容の見直しを図った。</p> <p>当初、平日の朝の散歩前、8時から子どもたちと職員がヤギ小屋の掃除を行い、8時半からは子どもたちが5グループに分かれ、各所の雑巾がけと畑活動に取り組む流れとし、日々の日課として行った。</p> <p>習慣は定着したが、散歩に出る時間が遅れがちになったことから、11月からは日課の流れを再度見直し、8時15分から「さくらさくらんぼリズム」、8時半から雑巾がけ・畑活動・ヤギ小屋掃除を、グループに分かれて行うようにした。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
<p>上記の年度途中での日課の流れの見直しは、登園後にまずリズムに合わせて身体を動かし、ほぐすことが、子どもたちの心身のリフレッシュにつながったためか、生活や保育に好影響をもたらした。11月の「園会議」では、幼児クラスからは「片付けが早くなり、朝の流れ的にはよい」、また乳児クラスからも「音に反応して、リズムに参加している」との声が上がったことが、会議録で確認できる。</p> <p>またグループに分かれて行う形としたことで、それぞれの子どもが日課を体験でき、また散歩の時間の遅れの解消などによって、戸外活動の時間の確保にもつながっている。</p> <p>年度末に作成された事業報告書では、取組の成果について、保育所保育指針などにおける「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」の語を用い、「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」や「健康な心と体」の育みにつながったとまとめられている。</p> <p>今年度もその成果を踏まえ、同様に運営本部ミッションをもとに、「続・原点回帰」として、日課や種々の基本的な保育活動や、食材と食の循環や資源・環境保護への意識を育む経験などを通じ、子どもの生きる力を育むことを園目標の一つに挙げ、保育への反映に取り組んでいる。</p>	

**評価項目2**  
事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

**前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)**

上記「評価項目1」同様に、昨年度の事業計画では、年度の運営本部ミッションに挙げられていた「大人のにんげん力UP」も園目標とした。法人共通の「私たちが育てる6つの力」として、「ケガをしない強い体を育てる」「自分でできることを自分でする」「活動を選択し、自分で考えて行動する」など、子どもたちの内発的な成長を後押しするうえでの保育の目標・指針とする、人としての6つの能力・行動特性を掲げている。これらを踏まえ、日々の活動の目的・動機や子どもたちのどのような力が育っているかなどを、毎月の園会議で話し合うことで、組織全体で省察を深め、保育の充実と、各職員の「にんげん力UP」につなげることを目指すこととした。  
実施の形態として、毎回の話し合いをグループ討議で行うこととし、小集団で語り合うことによって活発な意見の発信と交換を促した。4月の園会議では「自分でできることを自分でする」、7・8月には「生死を知る」をテーマに、その月の各クラスの子どもの姿や、その中での子育てのエピソードなどを交えながら、活動の振り返りやその後の保育に活かすための検討など、上記の活動本来の目的などの再確認につながる話し合いを重ねた。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

**評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評**

毎月の園会議での話し合いは、その後も年度の後半にかけて継続され、上記の「6つの力」を中心に、上述の保育指針における「10の姿」とも適宜照らし合わせ、各人の保育と子どもの育ちに関する思索と、それらに関する現場の共通理解を深めていった。1月には法人の「保育の質をあげる会議(各園のリーダー層職員が参集し、多様なテーマの講義・話し合いによって得た学びを自園に還元する会議)」でのテーマをもとに、子どもたちが園で取り組む、畑仕事や生き物の世話、雑巾がけなどの「労働」について、園内の状況や、大切さを伝えてゆくための工夫などを話し合い、併せて年間の取組の振り返りも行っている。  
話し合いは同じテーマを2か月間採り上げ、継続して話し合う形を基本とした。経営層は当初目的とした「なぜ」この活動を行っているのか」「子どもたちの「なにが育っているのか」の探求について、一定の成果を得たと考えている。  
今年度はそれを踏まえ、引き続き運営本部ミッションとなった「大人のにんげん力UP」に関連し、「学び続ける文化の醸成」を園目標の一つとし、昨年度同様の毎月の園会議等での話し合いや、保育のエピソードを伝え合う毎週の会議の実施などを挙げている。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の見学があった場合には、個別の状況に応じて対応している <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	サブカテゴリ1の講評	
	<p><b>法人・園のホームページに、子育てや保育の方針・特色、園の基本情報を掲載している</b></p> <p>法人のホームページには、法人が子育てについて大切にしている考え方とともに、その実践を「どろんこの子育て4つの軸」「どろんこの子育てで身につく6つの力」として、写真を添えて紹介している。また当園のページでは、所在地・連絡先・定員・運営時間等の基本情報を掲載するほか、園だより、食育・保健だよりや、日々の生活と遊びの様子を紹介するブログも参照可能となっている。一時預かりの対象年齢や保育料のほか、併設する地域子育て支援カフェ「ちきんえっぐ」の情報も掲載し、ウェブ上で問い合わせもできる入力・送信フォームも設けている。</p> <p><b>入園希望者の見学を受け入れ、園の保育の特徴を伝えている</b></p> <p>見学希望者の受け入れは、15時頃から1時間を目安に実施しており、午後の活動を観てもらおうようにしている。園だよりと献立・「入園のしおり」を渡しており、同しおりをもとに、保育内容や施設内の説明を行っている。見学者には保育内容の特色として、戸外での活動で身体を鍛えることや、食事をしっかり摂ること、「大きな家」をテーマに異年齢で過ごしていること、個々の意向や気持ちを尊重しつつ、体験も保障できるようにしていることなどを伝えるほか、行事内容や登園時間の協力依頼、持ち物や延長保育の料金体系なども説明するようにしている。</p> <p><b>「入園のしおり」に園の詳細な情報を掲載し、区のサイト等でも情報が提供されている</b></p> <p>見学者に手渡す入園のしおりには、法人の子育てや保育に対する考え方や、「ケガをしない強い体を育てる」「自分でできることを自分でする」「生死を知る／食の循環を知る」「感じたこと・考えたことを表現する」など、子どもたちに育まれる「6つの力」、運営理念やデイリープログラム、園と家庭との連絡ツール等に関する内容を掲載している。また板橋区のサイトや、同サイトと連携される区私立園長会の施設紹介サイトでも、園の所在地・連絡先やアクセスマップなどの基本的な情報や、上記の法人公式サイトへのアクセスリンクが掲載されている。</p>	



サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6 / 6
2	サービスの開始・終了時の対応		
<b>評価項目1</b> サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		<b>評点(000)</b>	
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		<b>評点(000)</b>	
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<b>サブカテゴリー2の講評</b>			
<p>入園に際して保護者に重要事項を説明し、種々の同意や意向を確認する機会を設けている</p> <p>入園予定の各家庭に対して、「入園のしおり」と重要事項説明書をもとに、保育内容や利用に関する留意点、与業の流れや苦情解決体制など、利用開始に必要な各種重要事項を説明している。特に利用料金・延長保育予約に係る部分については、誤解のないよう丁寧な説明を心がけている。また説明内容と個人情報の利用に関する同意、肖像の利用に関する可否も確認している。保護者が一度に多くの情報に触れることから、入園後にも疑問や不明点に丁寧に答えるよう配慮し、延長保育などについては、最初の利用時に再度詳しく利用の決まりや注意点を伝えている。</p> <p>子どもや保護者の状況など、保育開始に必要な情報を収集し、職員間で共有している</p> <p>保護者には保育開始に必要な、保護者や子どもの情報を入力するアプリケーションの使用方法に関する資料も配付し、個別面談当日までに情報を入力してもらうこととしている。面談時には「入所前児童面談票」を用いて、通園経験のほか、心身の発達状況や生活リズム、既往歴等を聴き取り、気になる点などがある場合には備考欄に記載している。食事や健康に関する特段の配慮が必要な場合には、看護師・栄養士からの聴き取りも実施している。面談で得た情報は、会議の際に面談を担当した職員が説明し、関係職員間で共有を図っている。</p> <p>入園直後の子どもの負担の軽減や、卒園後の行事への誘いなどの関係継続に努めている</p> <p>入園直後の生活・環境の変化による子どもや保護者の負担・不安を軽減できるよう、徐々に滞在時間を延ばしてゆく「慣れ保育」を実施している。保護者の就労復帰などを踏まえて日程や要否を調整し、保護者が安心できるように、子どもの様子や不明点等を聴き取る時間の確保に努めており、同じ時刻に一斉に受け入れるのではなく、登園時間を少しずつずらすほか、職員の勤務シフトを調整して、応対する職員が継続して話を聴くこととしている。卒園児の小学3年生までを対象に、夏休みの間に育児体験や園行事「どろんこ祭り」への参加を呼びかけている。</p>			

サブカテゴリー3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 <b>13/13</b>
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		<b>評点(000)</b>
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		<b>評点(00000)</b>
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー3の講評		
<p>子どもの心身の発達や家庭の状況を随時把握し、記録する仕組みが整えられている</p> <p>入園以降の子どもの心身の発達や生活・家庭の状況などは、日々の保育や保護者との交流を通じて把握し、年齢に応じた頻度で、生活・活動・食事等の子どもの姿を記録している。また年度末には年間の子どもの姿を振り返り、成長における個々の子どもの課題や、子どもをとりまく日々の保育内容についての省察を行っている。子どもの体格的な成長は、毎月身体測定を行い、専用アプリに記録して保護者とも共有しており、予防接種の状況や既往歴などの保健に関する情報は、変化があるごとに適宜保護者が追記をし、伝達する仕組みとなっている。</p> <p>全体的な計画をもとに、年間と各期間の保育計画や、個人別の計画を策定している</p> <p>全体的な計画は、養護と教育の領域で乳児及び年齢別に策定し、法人共通の「私たちが育てる6つの力」をもとに、具体的な活動を探り入れ作成している。これらをもとに年間を4期に分けた指導計画を策定し、短期的な月・週の計画に展開して実践につなげるようしており、周期ごとに振り返りを行い、次の計画に活かしている。また集団としての年齢別の計画に加え、心身の成長・発達やその個人差が著しい2歳児までと、個別の配慮を要する子どもには、個人別の指導計画を作成して、個々の発達や特性に応じた援助を実践できるようにしている。</p> <p>職員間で子どもや保護者の情報の共有を図り、個々に寄り添った支援に反映させている</p> <p>全体的な計画は年度当初にアプリで保護者にも配信するとともに、保護者懇談会で説明を行っている。日々の昼礼や各種会議では、保育に必要な子どもや保護者の情報を職員間で共有し、「シッターノート」には共有すべき事項や保護者への伝達事項を記載して、すべての職員が確認できるようにしている。また集団生活の場面の中で、特に配慮が必要と思われる子どもには、ケース会議で子どもの姿や場面ごとの課題を個別に省察し、子どもに合わせた援助・配慮や環境面からの工夫を検討して、個々の特性や発達の歩みに寄り添った支援を行えるようにしている。</p>		

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	5 / 5
<b>評価項目1</b> 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p><b>個人情報の適切な取り扱いと、子どものプライバシー・羞恥心への配慮に努めている</b></p> <p>個人情報の取り扱いについて、ホームページ上のプライバシーポリシーに情報の利用目的や提供内容等を明記し、入園時には保護者に説明のうえ、承諾の有無についての確認をしている。また法人として個人情報の保護に関するマニュアルを整備し、職員に研修を行い、周知に努めている。子どもの羞恥心への配慮として、裸にならないよう着替えの手順を知らせるほか、排せつの失敗時には子どもの心情に寄り添い、他児からの視線が届かない場所で着替えを促している。また年長児を対象に性教育も行い、プライベートゾーンの大切さ・命の大切さを伝えている。</p> <p><b>子どもの主体性・自発性を尊重し、人的・物的両面の援助の工夫に努めている</b></p> <p>日々の生活と遊びを通じて、子どもが意欲を高めて自ら行う姿が見られた時にはその姿を尊重するほか、子どもたちが自分で選んで行動できるよう、環境構成の工夫に努めている。発達の特性などによって、特段の配慮を必要とする子どもへの対応では、専門家による巡回指導で得た助言を参考に、個別の支援計画を作成するほか、職員間や保護者との情報共有や連携に努め、集団生活を営む中でできる限り同じ体験を保障できるようにしている。また食物アレルギーなどの体質面や生活リズムなど、子どもの状況に応じた個別の援助・配慮にも努めている。</p> <p><b>不適切な保育の防止や、家庭内の虐待の早期発見に向けた取組を行っている</b></p> <p>不適切な保育の防止に向け、人権擁護に関するチェックリストによる確認を行い、職員に自省を促すほか、全国保育士会倫理綱領の読み合わせや、日々の保育に照らして感じたことを話し合うグループワークも実施している。また「保育品質マニュアル」の該当箇所をもとに、各クラスで虐待防止対策を検討している。家庭での育児不安や虐待の早期発見に向け、マルトリートメントに関する動画を視聴して学びを深めるほか、子どもの表情や身体の状態、保護者の様子の確認など、日々の保育や子ども・保護者との関わりの中で、虐待等の防止に取り組んでいる。</p>		

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
6	事業所業務の標準化	5 / 5
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー6の講評		
系列園共通の「保育品質マニュアル」等の手引書類により、業務の基本を示している 系列園共通の「保育品質マニュアル」に、保育の計画・内容や虐待・給食に関すること、苦情対応・衛生管理・感染症などのリスクマネジメント面や、入退園時の手続き・勤怠管理等、業務全般に関する基本的な考え方、実践時に必要となる手順や留意点などを記載し、入職時に全職員に配付している。同マニュアルには職員の読解を助ける写真やフロー図のほか、チェックリスト・資料なども掲載されている。また「保育運営管理マニュアル」にも、衛生管理・感染症や虐待対応、苦情解決や給食提供に関する考え方・留意点、連絡・連携の流れなどが示されている。		
内部監査や外部機関による業務点検と、「事故防止委員会」による対策がなされている 保育品質マニュアルは毎年度見直しを行い、必要な改訂を行う仕組みとなっているほか、定期的に法人の内部監査が実施され、安全に関わること・保育内容・保育環境などがマニュアル通りに実施できているか、第三者的な視点から確認している。またISO審査や福祉サービス第三者評価など、外部機関による仕組み・サービスの点検も活用している。組織内の「事故防止委員会」では、自・他園の事故記録の分析に基づき、対策を講じるほか、園内・外のハザードマップを年4回更新しており、写真と地図を用いて具体的な注意点やルートを明らかにしている。		
保育現場で必要な手順等を確認できるよう、手順書を用意し、実技研修も実施している 保育現場において、即時対応や随時確認が必要な手順を確実に実行できるよう、熱性けいれんの発作確認シート、衛生管理マニュアルの付表、嘔吐物が付着した食器の消毒手順のフロー、冷凍母乳への対応、消毒液の使い方などの手順書や注意書きを、使用が想定される場所に用意するほか、適宜チェックリストも活用している。また会議において、熱中症対策や夏に流行する感染症の内容の確認、水の事故に対する注意喚起、SIDSチェックなど、さまざまな手順の再確認・再周知が図られるほか、嘔吐処理の手順、避難訓練等の実技研修も実施している。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>日々の暮らしの中で子どもの気づきや意思を尊重し、子ども主体となる生活を営んでいる</p> <p>日々の園での生活や遊びの中で保育者が気づいた子どもの様子や成長・発達は、昼礼や各会議などの場で伝え合い、共有するほか、家庭の様子は保護者との日々の会話やアプリでのやり取り、面談などを通じて把握している。乳児室・幼児室が1階と2階に分かれる園舎は、全体を行き来できるような生活環境となっており、その中で営まれる一日の生活には、雑巾がけや畑仕事、生き物の世話等の日課となる活動を設定している。日課は子どもたちが自発的に行えるよう、保育士が手本を見せ、サポートを行っている。</p> <p>異年齢で過ごす子どもたちが、遊びや生活を通じて相互に育ち合えるようにしている</p> <p>3歳以上児は異年齢で過ごし、年度後半は2歳児も幼児室で生活をともにしている。日課での活動は年齢に関わりなく選択できるようにしており、雑巾がけや動物小屋の掃き掃除などを、年下の子どもが年上児の姿を模倣し、年上の子は年下の手助けをするなど、子ども同士で育ち合える環境となっている。活動や生活の時間もある程度の幅を持たせ、子どもの姿に応じて柔軟な対応を心がけている。各部屋には子どもの興味や発達に応じた玩具や道具を揃え、独り遊びから小集団での遊びなど、子どもが遊びを作り、展開していけるように空間設定がなされている。</p> <p>子ども間のトラブルへの援助における工夫や、就学に向けた小学校との連携に努めている</p> <p>発達段階で起きる子ども間のトラブルには、年齢や育ちに応じた対応を行っている。幼児では子ども同士で解決できるよう、保育者は様子を見守りながら、助言や言葉にできない思いの代弁などの援助を行い、大人の主導で解決してしまわないよう配慮している。また乳児の引っかきやかみつきなどのトラブルは、保護者には園内で起こったケガとして謝罪の意を伝え、必要に応じ園での子どもの様子を伝え、家庭での様子も聴くようしている。5歳児の円滑な就学に向け、行政主催の会議への参加や保育要録の作成と提出など、小学校との連携にも取り組んでいる。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2の講評		
<p>登降園時の情報を職員間で共有し、朝夕に保護者と子どもの様子を伝え合っている</p> <p>登園時には、保育者が子どもへの視診や保護者からの口頭での聴き取り等により、子どもの健康状態を確認している。得られた情報や伝達事項のほか、降園時に保護者に伝えたいこと等は「シッターノート」や「お迎え伝達ノート」に記録して職員間で共有している。体調が思わしくない子どもは、保護者の希望があれば室内活動等に変更し、こまめに検温や体調確認を行っている。降園時には、子どもの様子對話によってできる限り詳しく伝えようとする法人の方針「3分間対応」を旨として、子どもの様子をエピソードを添えて保護者に伝えるよう心がけている。</p> <p>排せつや衣服の着脱などの援助は、個々の発達や意欲を踏まえて取り組んでいる</p> <p>基本的な生活習慣の自立に向け、2歳児までは毎月個別計画を策定して、身体状況や意欲の姿を職員間で共有し、一人ひとりの状態や発達を踏まえて進めている。排せつは3歳児クラスに進級する時点で自立できることを目安に、子どもの興味や時間的な間隔、子どもが感じている排せつの感覚などを見計らって進めるようにしており、職員間で情報を共有し、家庭とも連携を図りながら援助している。衣服の着脱の援助では、身体的な発達の状況を把握しながら、子どもの意欲を尊重して援助し、自分でできたという経験を重ねて自信を持てるように関わっている。</p> <p>子どもの体力や生活リズムに応じた睡眠・休息や、身辺を自ら整える習慣を支援している</p> <p>食後は子どもの体力や生活リズムなどを踏まえて、身体を休める時間を設けている。睡眠時にはSIDS対策として、定期的に子どもの顔色や体勢を確認し、状況を記録に残している。5歳児は年度後半は午睡をせずに、部屋で過ごしたり、園周辺の落ち葉拾いをするなどの役割を担っている。また食後の室内清掃を楽しみながら進んで行う姿もあり、年長児としての自覚や責任感なども養われている。週末は子どもたちが自分のシーツを片づけることとなっており、戸惑っている年下の子どもに対して自発的に手助けする年上の子どもの姿が見られている。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p><b>子どもが目的意識を持って行動できるような取組を設定し、必要な環境を整えている</b>                  一日の始まりには座禅で心を整え、雑巾がけを行って、生活の場を清潔に仕上げようとする意識や行動を身につけている。雑巾を絞ることや足腰を踏ん張って進む方向へと雑巾がけをすることで、手指の力加減や体幹が鍛えられている。リズム体操や動物の世話・畑仕事など、日課の中でのすべての活動では、子どもが主体となり、毎日を楽しみながら心地よく過ごそうとする意識が高まるようにしている。幼児室の縁側からは自由に園庭に出ることができ、訪問調査時にもそれぞれの子どもたちが思い思いに遊びに取り組もうとする姿が見られている。</p> <p><b>大人との応答的な関わりを通じて、子どもの自己表現をしようとする力が養われている</b>                  乳児は表情や動作、視線などの子どもからの発信を保育者が応答的な言葉で受けとめて援助している。子どもの欲求を満たすことで、安心して自分の気持ちを表現できるよう援助し、幼児は自分の気持ちを言葉に出したり、前向きな気持ちで取り組んだりできるよう、雰囲気づくりや言葉かけなどを工夫している。幼児から就学前教育として体操・音楽・「のびのび教室」に取り組み、体操は身体の使い方やバランスを身につけ、音楽は音に合わせて表現する楽しさや楽器等を体験している。のびのび教室では数の大小・形・量・文字などに楽しみながら触れている。</p> <p><b>季節の移ろいを体感できる活動を設け、多彩な人々との関わりから社会性を培っている</b>                  日々の戸外活動では、周辺の草木や外気温などの自然環境の変化から季節の移ろいを五感で感じ取り、子どもがさまざまな経験を重ねることにより、好奇心や探究心など豊かな感性が育つよう配慮している。散歩先は年齢に応じて徐々に距離を延ばし、体力の伸長につなげている。地域との関わりは商店街ツアーや銭湯体験、高齢者施設への訪問や「青空保育」など、さまざまな大人とふれ合える活動を設け、社会性も培われている。室内外でルールのある遊びも採り入れ、遊びながらルールを守ることや自分の気持ちを調整することを学んでいる。</p>		



4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもにとって必要な行事を検討し、子どもとともに作り上げられる企画を立案している</p> <p>次年度の行事計画策定にあたり、通年通りという認識ではなく、「子どもたちにとって何が必要なのか」を問いかけ、一つひとつの行事の意味を職員間で共有し合い、体験させたい活動を探り入れて計画することを旨としている。「どろんこ祭り」や運動会では、保護者と行事のねらいや内容を共有し、ともに行事を作り上げていけるよう協力を求めている。七夕やお月見・節分などの四季折々の伝承行事では、保育者が子どもに理解できるような内容で行事の意味を伝えるほか、行事に関連するものを題材にした制作も、子どもの創意工夫のもとで取り組んでいる。</p> <p>子ども・保護者・職員が皆で楽しめる行事を行い、一体感が生まれている</p> <p>運動会は年齢や発達に応じた内容を考案し、日頃の遊びを競技として採り入れ、自分の力を発揮しながら友達と力を合わせて作り上げる組体操にも取り組んでいる。5歳児は縄跳びを種目として、それぞれ挑戦したい回数を自己表明してから取り組んでおり、日頃から練習に励んでいる成果を保護者に披露している。また有志の保護者と保育者が一緒にソーラン節を披露したり、保護者障害物競走も盛り込むなど、子どもだけでなく、大人も主体となることで、子どもたちの応援にも力が入り、子どもも大人も楽しめる会となっている。</p> <p>行事は取り組む過程を大切にし、保護者とともに成長の喜びを感じられるようにしている</p> <p>保護者への発表を伴う行事は、子どもの成長を保護者と共有する機会として、日々の送迎時の対話や活動報告で伝えるほか、お便りを発行して、行事のねらいや子どもたちの様子などを紹介している。運動会や発表会などの保護者参加の行事では、披露することだけに注力することなく、行事への提案を出発点として、子どもたちとイメージを共有して徐々に作り上げる過程を大切にしたいと考えている。行事開催後は、各行事のねらいに伴う子どもたちの姿や保護者の意見などを参考にして振り返りを行うことで、次年度に活かせるようにしている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目5の講評		
<p>開放的な環境の中で、個々の子どもがゆったりと過ごせるよう環境・時間を工夫している</p> <p>一人ひとりが登園時から降園までの生活リズムを身につけ、保育者からの指示で気づくのではなく、自発的に行動し、遊びや生活を楽しむよう、空間や時間の配慮を行っている。子どもの低い視線からでも見渡しのよい開放的な園内の中で、子どもたちが一日の生活を通してゆったりと過ごしている様子が見られている。また園庭ではヤギや鶏を飼育し、慣れ親しむことで、子どもの心の安定とともに、よりどころとしての存在にもなっている。保育者は個々や集団で遊びに夢中になる子どもの姿を見守り、子どもたちが主体的に過ごせるような支援を心がけている。</p> <p>延長時間帯でも子どもが寂しさを感じないような援助を心がけている</p> <p>合同保育時間帯は子どもの体調に合わせ、身体を休めるなど、落ち着いて過ごせるように配慮している。夕方の延長保育は子育て支援室にて、子どもの人数を考慮しながら無理なく過ごせるようにし、19時には夕食も提供している。また子どもの年齢や様子に合わせた玩具を用意したり、日中からの遊びの継続をしたい子どもの要望にも応えたりするなどの配慮を行っている。子どもが寂しさや不安などから情緒面が不安定になる場合などには、保育者が甘えを十分に受けとめ、個別にゆったりと関わるなどし、安心して保護者のお迎えを待てるようにしている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目6の講評		
<p><b>毎日の食事は、安全な食材の提供やおいしく食べられる環境の工夫に配慮している</b>                  完全自給自足で新潟から直送される米をはじめ、厳選された食材を活用して、素材の味を活かした食事を提供している。幼児はバイキング形式を採用し、自分の食べられる量に応じて盛りつけを加減している。温かな日差しの中、縁側で食事をしたり、子どもたちが好きな席を選び、準備を終えた子から食べ始めたり、仲間と一緒に食事を開始するなど、子どもが主体的に食事に向かえる環境を整え、大人も一緒に食事することで、姿勢や食具の使い方などを促したり、同じものを食べながらおいしさを共有し、楽しい雰囲気の中で食事が進むようにしている。</p> <p><b>アレルギー除去食や離乳食など、個々に合わせ安全に食事ができるよう配慮している</b>                  食物アレルギーの子どもには、「除去食申請書」をもとに保護者と面談を行い、除去対応についての説明をして、理解を得たうえで開始している。職員間での事前の除去内容の確認と職員全員への周知、提供前のチェックなどの仕組みも整え、安全な食事提供に努めている。専用のトレーに対象の子どもと除去食名を明示し、誤食を防ぐためにあらかじめ盛りつけた状態で個別配膳を行っている。離乳食も家庭で試した食材を園で提供することとしており、子どもの喫食や発達の状況を確認し、家庭と園との連携を図りながら食事の段階を進めている。</p> <p><b>食育活動は健康的な生活の基本として位置づけ、生活に根差した取組を行っている</b>                  食を健康的な生活の基本として、育てる・感謝する・変化を知るなど食への興味・関心を深め、実践できるようなさまざまな活動を行っている。毎日の畑仕事では季節の野菜の栽培・収穫を行い、土のふれ合いから食べ物の大切さを肌で感じている。旬の自然素材を活用して、梅ジュースやケチャップ・味噌作りなど、四季や素材の変化を感じ、おいしさを共感する経験の積み重ねを体感している。また目の前で魚の解体から、生体を知り、命をいただく大切さを学び、園庭で火をおこして焼き芋を楽しむなど、学びにつながる実体験を行っている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目7の講評		
<p><b>子どもたちが自分の健康に対する意識を育めるよう、保健指導を行っている</b></p> <p>子どもたちが自分の健康に対する意識を育み、自分の身を守るための知識や所作を習得できるよう、保育の中で保健指導を実施している。排せつや着替えの援助では、保育者が清潔になる心地よさを言葉や表情で伝え、幼児クラスでは肌着の大切さや水分補給・衣服の調節のほか、季節性の感染症や体調不良を訴えることの大切さ、トイレの使い方なども教えている。また排便後の処理については、個別に関わりながら伝えるようにしている。性教育にも取り組んでおり、パズルや絵本を用い、胎児が大きくなっていく様子などを通じて、命の大切さを伝えている。</p> <p><b>日々の生活の中で、子どもが安全への関心を持ち、ケガを防止できるよう援助している</b></p> <p>裸足保育や雑巾がけ、リズム体操、長距離散歩や木登りなど、ケガをしない丈夫な身体づくりに向けた取組を日常的に行い、はさみなどの危険を伴う道具については、危険さを知らせながら使い方を教えている。また園内外の危険箇所を子どもたちに周知させ、経験の中から危険を察知し、判断できるよう、見守りつつ言葉がけをすることも大切な援助と考えている。避難訓練では、身を守るための行動や姿勢等を教え、散歩の際に道路の歩き方などの交通ルールを伝えるほか、警察署員を招いて交通安全教室を実施し、実際に警官と街を歩く体験をしている。</p> <p><b>子どもの健康維持に向け、医師との連携や保護者への情報発信、健康観察を行っている</b></p> <p>囁託医による健診を年2回実施しており、保健に関する助言や医療情報の提供に応じてもらうなどの連携も図られている。服薬の介助は、与薬依頼書と薬剤情報提供書をもとに行っている。視診や検温などの健康観察を行って子どもの健康状態を把握し、睡眠時には体位や呼吸の確認を行い、休息や水分補給も必要に応じて支援している。保護者への保健情報の提供にも取り組んでおり、毎月発行する食育・保健だよりには、感染症や身体に関する情報を掲載し、園内で感染症が発生した際には、必要に応じて掲示やアプリで状況を伝え、注意を促している。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目8の講評		
<p>子どもと保護者の個別の状況や家庭の意向を把握し、柔軟な支援に努めている</p> <p>保護者の育児負担や不安の軽減につなげられるよう、子どもの発達状況や特性、体質などについては、入園時の書類や面談で確認しており、家庭との連携のもとで、可能な範囲の個別援助に取り組んでいる。保護者の個別の子育てに関する考え方や意向の把握に努めるだけでなく、意見箱の設置や、行事後のアンケート実施など、保護者の意見や要望を聴く取組も行っており、保育実践等の改善の参考としている。保護者の就労や通院等による、急な利用時間や利用日の変更にも、柔軟な対応を心がけ、利用者調査でも高い支持を得ている。</p> <p>保護者同士が交流する機会を設け、育児の参考となる情報の提供に努めている</p> <p>保護者同士が交流し、親睦を深められるよう、年に2回行う保護者懇談会では、子どもの成長・発達を資料を用いて説明するほか、保護者同士が保育者を交え、育児に関する関心事を話し合い、相談し合える時間を設けている。また、子ども・保護者・保育者が一緒に創り上げ、楽しむ夏祭り「どろんこ祭り」や、運動会の保護者競技、今年度は中止となった「親子川遊び体験」などの行事も、保護者同士が関わる機会となっている。このほか、園だより、食育・保健だよりの発行やレシポの提供など、家庭での育児の参考となる情報の提供に取り組んでいる。</p> <p>保護者に子どもの成長の様子を伝えるべく、さまざまな取組を行っている</p> <p>保護者懇談会では、子どもの成長や現在の姿について、「ケガをしない強い体を育てる」「自分でできることを自分でする」など、法人が掲げる「私たちが育てる6つの力」の視点で作成した資料をもとに紹介し、年齢特有の発達や今後の見通しなどについても説明している。日々の送迎時の対話や、連絡アプリでの写真を用いた活動報告をはじめ、園だよりにおいても子どもの成長を伝え、保育参加では園での子どもの姿を保護者と共有するなど、子どもの姿や成長、保育の方針などに関する保護者との共通理解の構築に努めている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域資源を活用した活動を通じて、子どもたちの興味・関心の広がりを促している</p> <p>近隣への散歩では、地域の方と挨拶を交わし、公園や民家の植栽などから、季節の移り変わりや自然の不思議さに触れている。また年長児は小学校の見学に出かけるほか、高齢者施設との交流ではふれ合い遊びを楽しんだり、歌を発表したりしている。銭湯体験も行い、近隣の商店の方から商品の説明をもらったり、仕事の様子を見せてもらったりする「商店街ツアー」では、八百屋や生花店・薬局など、さまざまな種別の店舗に出向いており、ツアーの体験から興味や関心が湧き、遊びの広がりや、さらなる活動の展開が促されている。</p> <p>生きる力を獲得できるよう、子どもたちがさまざまな人と関わる機会を設けている</p> <p>法人共通の考え方の一つとして、「誰もが自由に行き来できる私たちの大きな家」を掲げている。子どもが保護者・職員・地域の方々など、さまざまな世代や年齢の人々と関わりながら、生きる力を獲得できるよう保育活動を展開しており、上記のような地域資源を活用した取組を行っている。これに加え、小中高生のボランティアや職業体験、保育や看護の実習生の受け入れも行い、一定期間子どもたちとの関わりが持たれているほか、「どろんこ祭り」や運動会、保育参加などでは、保護者が行事や保育に参加し、子どもたちと関わる機会が設けられている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	子どもの声や多様な育ちを日々の活動に反映させ、豊かな五感の伸長にも取り組んでいる	
内容①	<p>幼児は異年齢で過ごすとともに、支援が必要な子どもについても同じ空間で生活・遊びをともに過ごす「インクルーシブ保育」を行っている。大人は子どもたちが自分で考え決定できるように問いかけ、子どもの声を傾聴する姿勢を持つことで、子どもたちが何を考え、必要としているのかを把握し、環境や活動を計画し、実践へとつなげている。戸外では土や自然物などを身近に感じ、多様な刺激から五感が養われ、子どもの心が豊かに育まれている。公園で発見した生息物の分布図を掲示して興味を広げ、地域の人々とふれ合える活動などにも取り組んでいる。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	子どもの姿や保育の考え方を保護者に伝えるため、さまざまな取組を行っている	
内容②	<p>保護者とともに子どもの育ちを支えるべく、子どもの姿や保育の考え方を伝える取組を、さまざまに行っている。日々の送迎時の対話や、連絡アプリを活用して行う写真を用いた活動報告に加え、園だよりにおいても子どもの成長を伝え、保護者が参加する行事や保育参加も実施している。また保護者懇談会においては、日頃の子どもの姿の紹介に加え、育ちの推移と保育者の配慮、今後の見通しなどを、法人共通の保育の柱とする「6つの力」の育みの視点で説明する資料も配付するなど、保護者に園と法人の保育実践や、込められている思い・考え方を伝えている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル③	現場の活発な話し合いが、目指す保育への職員の理解を深め、安全への意識を高めている	
内容③	<p>毎月の「園会議」では、リズム遊びのレッスンなどの実践的な学びのほか、法人共通の保育の目標・指針とする「私たちが育てる6つの力」について、それぞれの「力」をテーマにグループ討議を行い、日々の活動の本来の目的や動機、活動が子どもの育ちにもたらすものなどを、子どものエピソードなどを交えながら話し合い、現場の共通理解を深めている。同会議では当月の事故事例の共有・検証など、安全面の啓発も随時なされ、毎週の「週会議」でも同様にその週の事故事例の振り返りを行うなど、話し合いを通じた保育の充実や安全の向上が図られている。</p>	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	自然や人間本来の素朴な生活に根差した毎日のさまざまな活動が、子どもたちの心身を豊かに育み、自己を肯定する力を養っている
	内容	法人が掲げる「私たちが育てる6つの力」を具体的に示して、日々の生活・遊びの中で展開しており、子どもの心情・意欲や態度を養っている。子どもたちは毎朝の仕事として、雑巾がけやヤギ・鶏の世話、畑仕事などに取り組む中で、自立心や他者と協力する心を培い、命と食の循環に触れている。また6つの力の一つである「ケガをしない強い体を育てる」の実践として、リズム体操や長距離散歩・木登りなどで身体を存分に動かし、柔軟で強い身体と心を養うとともに、一つひとつの小さな自信の積み重ねが、自己を肯定する力の育ちへとつながっている。
2	タイトル	食材の吟味や食欲増進を促す環境の工夫、生活の中での食の学びなど、子どもの興味と意欲を高める食事と食育の工夫に取り組んでいる
	内容	日々の食事では、産地や安全性に配慮した食材を用い、和食を中心に栄養バランスも考慮したメニューを提供しており、幼児は開放感が感じられる縁側でバイキング形式で食べ、乳児・幼児ともに保育者も食事をともにすることで、大人の所作が食事マナーの手本となり、おいしさを共有する中で食欲増進も図られている。また土を耕すことから始める畑仕事は、食のありがたみなどを感じる体験ともなり、せんべい作りではせんべい屋に手順を聴きに行くなど、必要なことを学ぼうとする姿勢も育んでいる。
3	タイトル	子どもの主体的・自発的な活動や体験を保障しながら、安全も確保するための、業務の標準化と最適化に向けた仕組みを整えている
	内容	保育においては、陽光と土に触れる活動や日々の素朴な生活体験を大切に、大人が子どもの行動を規制することなく、多様な経験を保障することを旨としている。そうした法人の保育の特質を踏まえ、体験から子どもたちが安全を学ぶことも重視しつつ、「防げるケガは防ぐ」ことを方針として、さまざまな配慮に努めている。保育や安全・保健衛生面全般の基本を示す種々の手引書類やチェックシート、嘔吐処理などの現場の実技研修、内部監査による業務点検や、事故事例等に基づく対策の検討と改善など、業務の標準化と最適化の仕組みを整えている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	現場の負担の軽減を図りつつ、その一助ともなる、仕事における計画性や、連携・協力に必要な広い視野を組織的に高めたいと考えている
	内容	職員自己評価では人員体制の充実など、現場の負担軽減を課題とする声が見られている。経営層は子どもの育ちの多様化など、現場の状況の変化も踏まえ、法人とも連携して体制の最適化を図るとともに、若手職員を中心に、目の前の事柄や自身の職掌だけでなく、より先までの見通しや周辺への視野を持って仕事に取り組む意識を高め、組織の文化として根づかせることも、生産性を高めるうえでの課題と考えている。計画性への意識や広範な視点は、日常の保育や安全管理、発達の連続性を意識した援助などにも活かされるものと思われ、啓発の進展が期待される。
2	タイトル	日々蓄積される「タイムライン」を、園・法人の保育の特質を保護者に伝え、相互理解を深める媒体としてさらに活用する工夫が期待される
	内容	保護者会では上述の「6つの力」の育みについて、育ちの推移と見通し、保育者の配慮などを伝え、詳細な資料も作成されている。それらを保護者へさらに発信し、訴求してゆく工夫として、例えば子どもたちの日々の姿を、写真と言葉で伝える「タイムライン」は、過去のを掘り起こし、考察を加えるなど、成長の流れや保育実践の根底にある考え方等を伝える媒体としても活用可能と思われる。日々蓄積される膨大なタイムラインは、保育の足跡ともいべき実践の記録でもあり、体系的な整理・分類など、検索性を高めるための工夫に期待が寄せられる。
3	タイトル	さまざまに行われる園の安全向上の取組も、よりの確に保護者に伝え、安心材料の一つとしてゆく工夫を期待したい
	内容	防災・防犯訓練や毎週・毎月の会議での事故事例等の共有・考察、それらを含む「事故防止委員会」の活動など、安全の確保と向上に向けた多様な取組がなされている。利用者調査では総合・質問別とも概ね高い支持を得る一方、安全管理に関する質問では、数値・自由意見とも、保護者の懸念を示唆する結果が示されている。個別の意見として寄せられた事象の検証などに加え、「安全計画」の保護者へのより詳細な発信も含め、前述のさまざまな安全向上の取組をよりの確に保護者に発信し、不安解消の一助とするための、今後の検討を期待したい。